



2023年12月22日

各 位

会社名 リンクメッド株式会社  
代表者名 代表取締役社長 吉井 幸恵

## リンクメッドとペプチドリーム、放射性医薬品化合物 $^{64}\text{Cu}$ -ATSM の 国内での開発・商業化に関する戦略的パートナーシップに合意

リンクメッド株式会社（代表取締役社長：吉井 幸恵、本社：千葉県千葉市、以下「リンクメッド」）とペプチドリーム株式会社（代表取締役社長：リード・パトリック、本社：神奈川県川崎市、以下「ペプチドリーム」）の子会社であるPDRファーマ株式会社（以下、「PDRファーマ」）は、本日、悪性脳腫瘍に対する放射性医薬品候補化合物  $^{64}\text{Cu}$ -ATSM の国内での臨床開発・承認申請・商業化に関する戦略的パートナーシップについて合意いたしましたので、お知らせいたします。

$^{64}\text{Cu}$ -ATSM は、低分子化合物である Diacetyl-bis( $N^4$ -methylthiosemicarbazone)を放射性同位元素である  $^{64}\text{Cu}$ （銅-64）と結合させた放射性医薬品です。多くの腫瘍においては、がん細胞の急速な増殖に伴い腫瘍内部が酸素の乏しい低酸素状態になっていることが知られています。 $^{64}\text{Cu}$ -ATSM は低酸素状態の組織に集積する性質を有することから、がん細胞の DNA にダメージを与える  $^{64}\text{Cu}$  を腫瘍に送達することを可能とし、各種腫瘍への治療効果が期待されています。

悪性脳腫瘍は、日本国内だけでも、毎年約 4,000-5,000 例が罹患すると報告されています。5年生存率は約 15.5%、生存期間の中央値は約 18 カ月、再発率が約 51%と非常に予後の悪いがんの一つとして知られています。現状、外科手術、放射線治療、化学療法等の既存の治療法で十分な効果が得られず再発した場合には、有効な治療法が確立されていません。

$^{64}\text{Cu}$ -ATSM については、再発悪性脳腫瘍（膠芽腫・神経膠腫・PCNSL、悪性髄膜腫）の患者さんを対象に安全性を確認するための第1相臨床試験（医師主導治験）が国立がん研究センターで進められてきました（jRCT2091220362）。本試験はオープンラベルの用量漸増試験であり、主要評価項目は用量制限毒性（DLT）発現割合、副次評価項目は奏効割合、無増悪生存期間

(progression-free survival : PFS) 、内部被ばく評価による推定実効線量、有害事象の発現割合、ステロイド非増量割合、カルノフスキーの一般全身状態スコア (KPS) 非悪化割合となっており、2024 年前半の試験完了を予定しています。

本パートナーシップでは、両社協働のもと、リンクメッドが主体となって  $^{64}\text{Cu}$ -ATSM の開発を進め、PDRファーマが主体となって国内での承認申請および商業化にむけた準備を進めてまいります。また、今後の開発・商業化において必要となるコストおよび製品上市後に得られる収益を両社間で分配いたします。なお、ペプチドリームはリンクメッドが直近に実施したシリーズ A 関連資金調達において出資を行っています。

リンクメッド代表取締役社長 吉井 幸恵は次のように述べています。

「当社が研究開発を進めておりました  $^{64}\text{Cu}$ -ATSM を PDRファーマと戦略的パートナーシップに合意できたことにより、共に事業を進めていくことで患者さんに薬を届けられる道筋がみえたことを大変うれしく思います。また、長年の実績がある PDRファーマに当社の技術である銅の放射性同位体である  $^{64}\text{Cu}$  を評価してもらったことは、当社技術の有用性を改めて示せたことでもあり、自信をもってがんの診断と治療の両目的に使える次世代型放射性医薬品の開発を進めてまいります。」

PDRファーマ常務取締役、ペプチドリーム取締役副社長 CFO 金城 聖文は次のように述べています。

「この度、リンクメッドとの戦略的パートナーシップに合意し、両社間で新たな放射性治療薬である  $^{64}\text{Cu}$ -ATSM の開発・商業化を進めていけることを大変喜ばしく思っています。従来は診断薬に活用されることが多かった  $^{64}\text{Cu}$  核種を、治療薬にも応用していくアプローチは世界でも先駆的な取り組みであり、放射性治療薬の新たな可能性を切り拓いていく点においても大きな期待を寄せています。放射性医薬品ならではの強みを活かし、これまで十分な治療法がなかった疾患に苦しむ患者さんに対して革新的な医薬品をお届けできるよう尽力してまいります。」

## リンクメッドについて

リンクメッド株式会社は、「Link for Life-最先端科学と医療をつなぐ-」というミッションを達成するために、『革新的な「見える」がん治療』をいち早く社会にお届けすることを目指し、放射性医薬品の開発を行っている研究開発型企業です。当社は量子科学技術研究開発機構 (QST) における研究をもとに設立され、銅の放射性同位体である  $^{64}\text{Cu}$  を用いたがんの治療薬・診断薬を開発しています。詳細は当社ウェブサイトをご覧ください (<https://www.linqmed.co.jp/>) 。

## ペプチドリームについて

ペプチドリーム株式会社（東証プライム市場 証券コード 4587）は、特殊環状ペプチドから新たな革新的医薬品を産み出すことで、アンメット・メディカル・ニーズに応え、世界中の人々の生活の質を向上させることを目指しています。ペプチドリームは 2006 年の設立以来、数兆個もの多様性を持つペプチド・ライブラリーを生み出し、かつライブラリーから効率的に有望かつ選択性の高い特殊環状ペプチドを選び出す独自の創薬開発プラットフォームである PDPS (Peptide Discovery Platform System) 技術を活用し、ペプチド創薬、低分子創薬、ペプチド-薬物複合体（PDC）および多機能ペプチド複合体（MPC）による治療薬・診断薬への展開を進めております。ペプチドリームは、共同研究開発パートナーによる広範囲なグローバル・ネットワークを構築し、幅広い疾患領域に対する医薬品の開発・販売を実施します。さらにペプチドリームでは、完全子会社である PDR ファーマを通じて日本における放射性医薬品の販売も実施しています。ペプチドリームの本社の所在地は川崎市です。当社や当社技術、パイプラインについての詳細については、<https://www.peptidream.com> をご覧ください。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

リンクメッド株式会社

[linqmed@linqmed.co.jp](mailto:linqmed@linqmed.co.jp)